

7-3-2 人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行(工事の実施)

1) 調査内容

① 調査項目

調査項目は、表7-3-2-1に示すとおりとした。

表7-3-2-1 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る調査項目

調査内容	調査項目	
人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスルートの状況	交通量の状況	方向別、車種・種類別(大型車、小型車、二輪車、歩行者、自転車)、時間別の交通量
	交通安全の状況	歩道の整備状況、路側帯の整備状況、信号機、横断歩道等の交通安全施設の整備状況

② 調査期間

調査期間は、表7-3-2-2に示すとおりとした。

表7-3-2-2 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る調査期間

調査内容	調査項目	調査期間
人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスルートの状況	交通量の状況	秋季平日：平成28年11月16日(水)7時～19時 秋季休日：平成28年11月13日(日)7時～19時 冬季平日：平成29年2月6日(月)7時～19時 冬季休日：平成29年2月5日(日)7時～19時 春季平日：平成29年5月17日(水)7時～19時 春季休日：平成29年5月21日(日)7時～19時 夏季平日：平成29年8月3日(木)7時～19時 夏季休日：平成29年8月6日(日)7時～19時
	交通安全の状況	平成28年11月

③ 調査方法

調査方法は、表7-3-2-3に示すとおりとした。

表7-3-2-3 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る調査方法

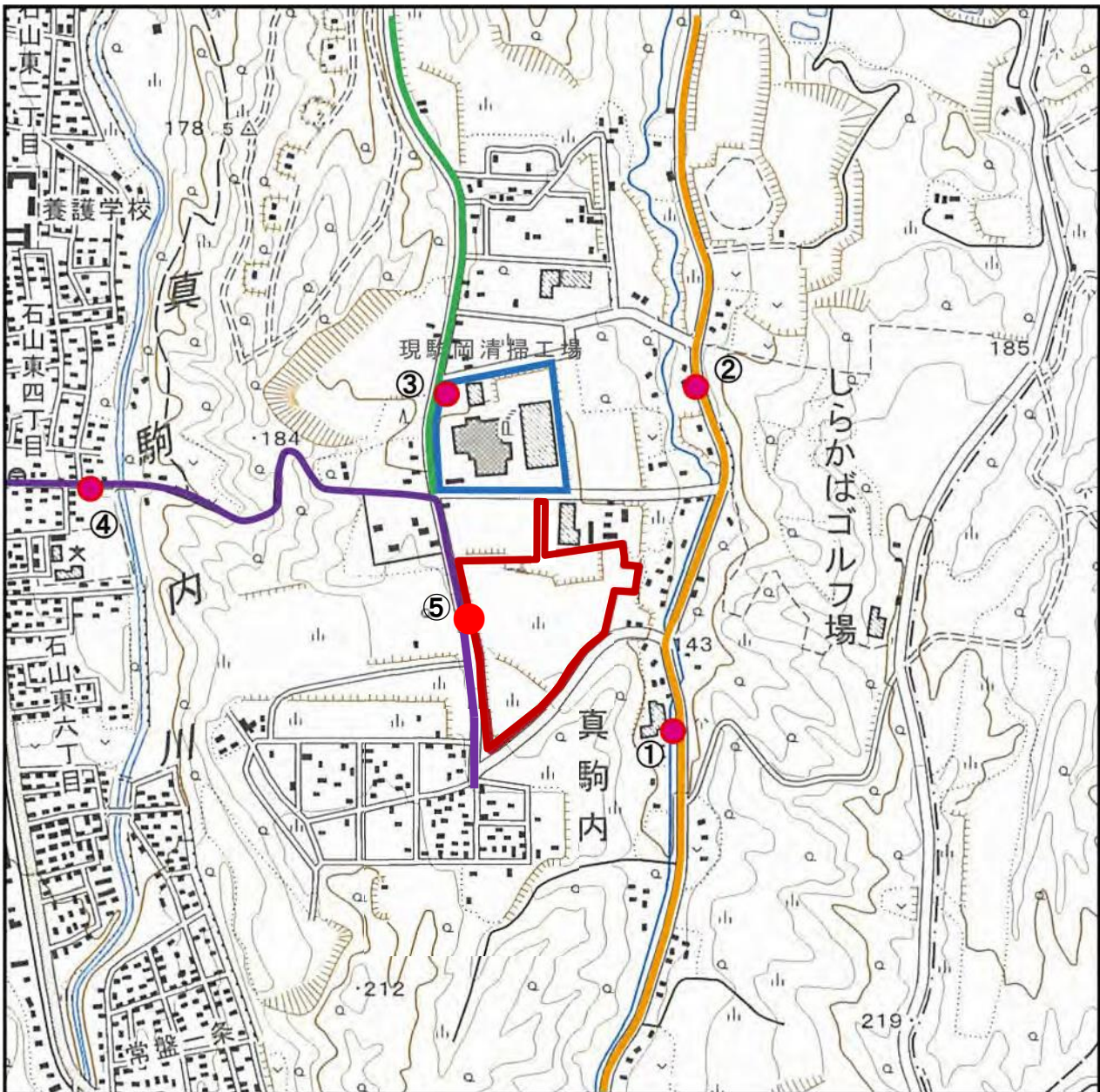
調査内容	調査項目	調査方法
人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスルートの状況	交通量の状況	現地でビデオ撮影した映像を室内で計測した。
	交通安全の状況	調査対象地域を踏査し、現地で交通安全施設等を確認・記録した。

④ 調査地点

調査地点は、表7-3-2-4及び図7-3-2-1に示すとおりとした。

表7-3-2-4 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る調査地点

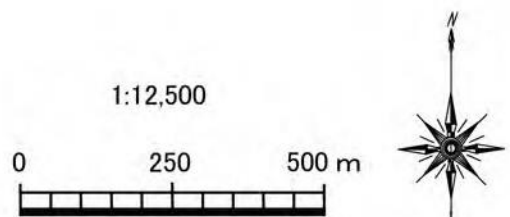
調査内容	調査項目	調査地点
人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスルートの状況	交通量の状況	①市道真駒内滝野線沿道(南) ②市道真駒内滝野線沿道(北) ③市道駒岡真駒内線沿道 ④市道石山西岡南線沿道(西) ⑤市道石山西岡南線沿道(南)
	交通安全の状況	市道真駒内滝野線沿道 (市道石山西岡線～事業実施区域～道道341号真駒内御料札幌線) 市道駒岡真駒内線沿道 (事業実施区域～市道石山西岡線) 市道石山西岡南線沿道 (事業実施区域～国道453号真駒内通)



凡 例	
	現駒岡清掃工場
	事業実施区域
	市道真駒内滝野線
	市道駒岡真駒内線
	市道石山西岡南線
	交通量調査地点
①	市道真駒内滝野線(南)
②	市道真駒内滝野線(北)
③	市道駒岡真駒内線
④	市道石山西岡南線(西)
⑤	市道石山西岡南線(南)

図7-3-2-1 交通量調査地点
 (資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)

注: この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(石山)を拡大して使用したものである



2) 調査結果

① 交通量の状況

ア. 秋季調査結果

秋季における交通量の調査結果を表7-3-2-5に示す。

平日の12時間交通量は、①市道真駒内滝野線沿道(南)と②市道真駒内滝野線沿道(北)がいずれも約2,000台であった。その他の地点は、③市道駒岡真駒内線沿道が1,550台、⑤市道石山西岡南線沿道(南)が490台、④市道石山西岡南線沿道(西)は積雪により通行止めとなったため、73台と少ない状況であった。休日の交通量は各地点とも平日より少なく、特に大型車の減少が顕著であった。

各地点とも二輪車、自転車の通行は平日、休日ともにほとんど無く、歩行者は最も多い地点が④市道石山西岡南線沿道(西)の平日で70人であった。

表7-3-2-5 交通量調査結果(12時間交通量：秋季)

調査地点	調査日	大型車 (台)	小型車 (台)	自動車 類合計 (台)	大型車 混入率 (%)	二輪車 (台)	歩行者 (人)	自転車 (台)
①市道真駒内滝野線沿道(南)	平日	331	1,715	2,046	16.2	0	27	1
	休日	48	1,639	1,687	2.8	5	53	0
②市道真駒内滝野線沿道(北)	平日	411	1,680	2,091	19.7	0	19	0
	休日	57	1,571	1,628	3.5	2	55	0
③市道駒岡真駒内線沿道	平日	445	1,105	1,550	28.7	0	31	0
	休日	26	534	560	4.6	5	25	0
④市道石山西岡南線沿道(西)	平日	9	64	73	12.3	1	70	7
	休日	2	61	63	2.2	0	25	0
⑤市道石山西岡南線沿道(南)	平日	61	429	490	12.4	0	17	0
	休日	28	300	328	8.5	3	8	0

調査日) 平日：平成28年11月16日(水)7時～19時
 休日：平成28年11月13日(日)7時～19時

イ. 冬季調査結果

冬季における交通量の調査結果を表7-3-2-6に示す。

平日の12時間交通量は、②市道真駒内滝野線沿道(北)と③市道駒岡真駒内線沿道がいずれも約2,100台であった。その他の地点は、①市道真駒内滝野線沿道(南)が1,553台、⑤市道石山西岡南線沿道(南)が414台、④市道石山西岡南線沿道(西)は積雪により通行止めとなったため、44台と少ない状況であった。休日の交通量は各地点とも平日より少なく、特に大型車の減少が顕著であった。

冬季は、現駒岡清掃工場の東側に雪堆積場が開設されているため、秋季と比べて②市道真駒内滝野線沿道(北)と③市道駒岡真駒内線沿道の大型車混入率が高い状況であった。

各地点とも二輪車、自転車の通行は平日、休日ともにほとんど無く、歩行者は最も多い地点が④市道石山西岡南線沿道(西)の平日で30人であった。

表7-3-2-6 交通量調査結果(12時間交通量：冬季)

調査地点	調査日	大型車 (台)	小型車 (台)	自動車 類合計 (台)	大型車 混入率 (%)	二輪車 (台)	歩行者 (人)	自転車 (台)
①市道真駒内滝野線沿道(南)	平日	209	1,344	1,553	13.5	0	22	0
	休日	84	1,399	1,483	5.7	4	28	1
②市道真駒内滝野線沿道(北)	平日	838	1,324	2,162	38.8	0	11	0
	休日	431	1,292	1,723	25.0	3	9	0
③市道駒岡真駒内線沿道	平日	1,178	968	2,146	54.9	0	27	0
	休日	409	542	951	43.0	0	11	0
④市道石山西岡南線沿道(西)	平日	1	43	44	2.3	1	30	0
	休日	0	19	19	0.0	0	22	0
⑤市道石山西岡南線沿道(南)	平日	54	360	414	13.0	0	12	0
	休日	22	314	336	6.5	0	6	0

調査日) 平日：平成29年2月6日(月)7時～19時
 休日：平成29年2月5日(日)7時～19時

ウ. 春季調査結果

春季における交通量の調査結果を表7-3-2-7に示す。

平日の12時間交通量は、①市道真駒内滝野線沿道(南)と②市道真駒内滝野線沿道(北)が多く約2,400台~2,500台であった。その他の地点は、③市道駒岡真駒内線沿道が1,368台、⑤市道石山西岡南線沿道(南)が551台、④市道石山西岡南線沿道(西)が274台であった。休日の交通量は、①市道真駒内滝野線沿道(南)と②市道真駒内滝野線沿道(北)が平日より多く、その他の地点では平日よりも少なかった。

各地点とも秋季、冬季と比べて二輪車、歩行者、自転車の通行が多く、歩行者は最も多い地点が④市道石山西岡南線沿道(西)の平日で71人であった。

表7-3-2-7 交通量調査結果(12時間交通量：春季)

調査地点	調査日	大型車 (台)	小型車 (台)	自動車 類合計 (台)	大型車 混入率 (%)	二輪車 (台)	歩行者 (人)	自転車 (台)
①市道真駒内滝野線沿道(南)	平日	308	2,220	2,528	12.2	55	33	60
	休日	78	3,289	3,367	2.3	95	40	58
②市道真駒内滝野線沿道(北)	平日	333	2,073	2,406	13.8	48	19	52
	休日	67	2,911	2,978	2.2	92	21	54
③市道駒岡真駒内線沿道	平日	253	1,115	1,368	18.5	13	34	15
	休日	31	898	929	3.3	13	20	8
④市道石山西岡南線沿道(西)	平日	8	266	274	2.9	6	71	20
	休日	12	253	265	4.5	4	47	8
⑤市道石山西岡南線沿道(南)	平日	48	503	551	8.7	5	16	8
	休日	33	504	537	6.1	9	19	3

調査日) 平日：平成29年5月17日(水)7時~19時
 休日：平成29年5月21日(日)7時~19時

エ. 夏季調査結果

夏季における交通量の調査結果を表7-3-2-8に示す。

平日の12時間交通量は、①市道真駒内滝野線沿道(南)と②市道真駒内滝野線沿道(北)が多く約2,200台~2,600台であった。その他の地点は、③市道駒岡真駒内線沿道が2,032台、⑤市道石山西岡南線沿道(南)が564台、④市道石山西岡南線沿道(西)が286台であった。休日の交通量は、①市道真駒内滝野線沿道(南)と②市道真駒内滝野線沿道(北)が平日より多く、その他の地点では平日よりも少なかった。

各地点とも二輪車、歩行者、自転車は春季と同程度か、やや少ない状況であった。

表7-3-2-8 交通量調査結果(12時間交通量：夏季)

調査地点	調査日	大型車 (台)	小型車 (台)	自動車 類合計 (台)	大型車 混入率 (%)	二輪車 (台)	歩行者 (人)	自転車 (台)
①市道真駒内滝野線沿道(南)	平日	386	2,256	2,642	14.6	38	11	45
	休日	86	3,415	3,501	2.5	96	22	53
②市道真駒内滝野線沿道(北)	平日	239	2,010	2,249	10.6	34	8	40
	休日	80	2,979	3,059	2.6	87	14	53
③市道駒岡真駒内線沿道	平日	805	1,227	2,032	39.6	4	27	9
	休日	49	917	966	5.1	11	15	12
④市道石山西岡南線沿道(西)	平日	11	275	286	3.8	3	47	6
	休日	0	194	194	0	7	28	25
⑤市道石山西岡南線沿道(南)	平日	71	493	564	12.6	2	19	5
	休日	29	504	533	5.4	8	13	10

調査日) 平日：平成29年8月3日(木)7時~19時
 休日：平成29年8月6日(日)7時~19時

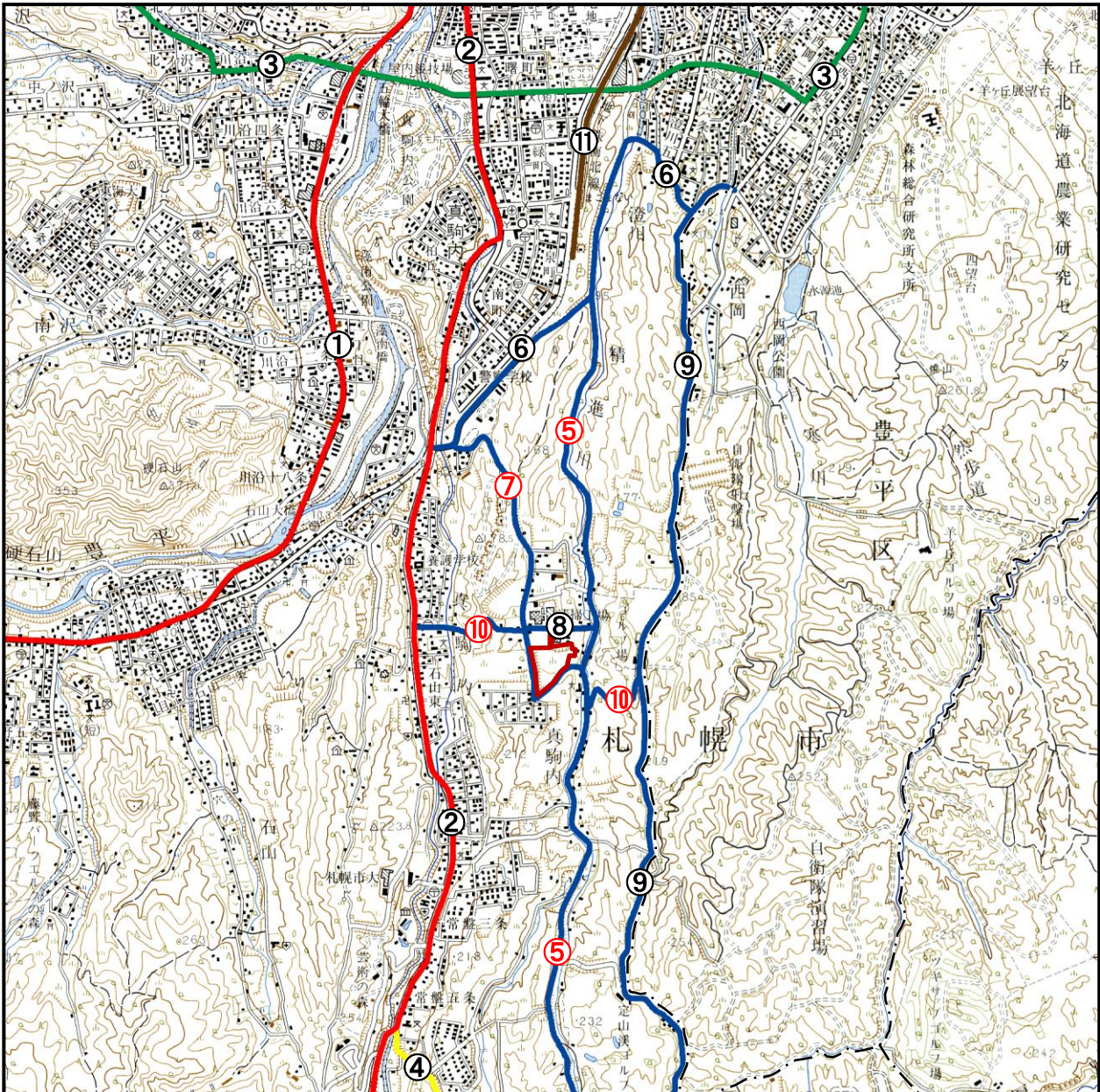
② 交通安全の状況

交通安全施設の状況の調査対象道路を図7-3-2-2に、調査結果を表7-3-2-9及び図7-3-2-3に示す。

事業実施区域周辺では、駒岡小学校前に押しボタン式信号及び横断歩道が設置されている。歩道は、市道真駒内滝野線沿道ではほとんどの区間に設置されており、市道駒岡真駒内線沿道では現駒岡清掃工場までの区間に設置されている。

表7-3-2-9 交通安全施設の状況

調査対象道路	調査区間	調査結果		
		信号機	横断歩道	歩道
⑤ 市道真駒内滝野線	事業実施区域 ～⑥市道石山西岡線 (図7-3-2-3範囲の北側区間)	無し	無し	片側
	事業実施区域付近 (図7-3-2-3範囲内)	1箇所 (押しボタン式： 駒岡小学校前)	1箇所 (駒岡小学校前)	一部両側
	事業実施区域～道道341号 (図7-3-2-3範囲の南側区間)	無し	無し	一部両側 (住宅立地区間)
⑦ 市道駒岡真駒内線	事業実施区域 ～⑩市道石山西岡線 (図7-3-2-3範囲の北側区間)	無し	無し	片側
	事業実施区域付近 (図7-3-2-3範囲内)	無し	無し	片側
⑩ 市道石山西岡南線	事業実施区域 ～②一般国道453号 (図7-3-2-3範囲の西側区間)	無し	無し	無し
	事業実施区域付近 (図7-3-2-3範囲内)	無し	無し	無し・一部両側

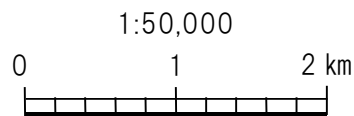


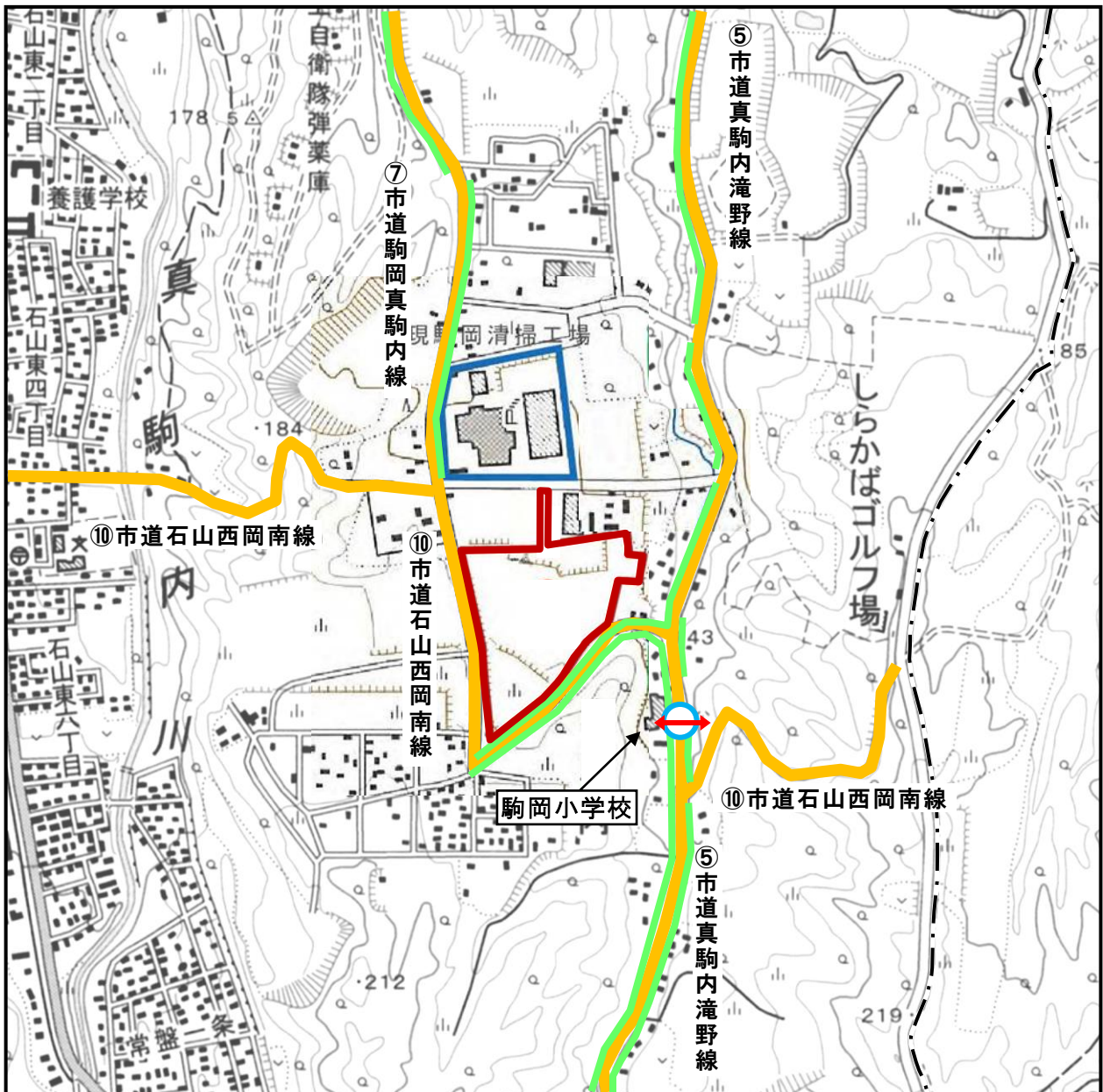
凡 例			
	事業実施区域		
- · - · -	区 界		
	国 道		市 道
	主 要 道 道		地 下 鉄
	一 般 道 道		
①	一般国道 230 号	⑦	市道駒岡真駒内線
②	一般国道 453 号	⑧	市道駒岡清掃工場横線
③	主要道道西野真駒内清田線	⑨	市道澄川厚別滝連絡線
④	一般道道真駒内御料札幌線	⑩	市道石山西岡南線
⑤	市道真駒内滝野線	⑪	札幌市高速電車(地下鉄)南北線
⑥	市道石山西岡線		

※赤字は調査対象とした道路を示す。

図7-3-2-2 調査対象道路

※この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(札幌、石山)を使用したものである











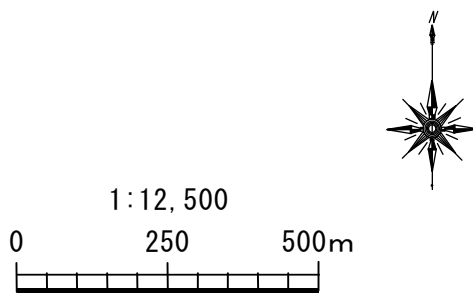
凡 例	
	現 駒 岡 清 掃 工 場
	事 業 実 施 区 域
	調 査 対 象 道 路
	信 号 機
	横 断 歩 道
	歩 道

図7-3-2-3 交通安全施設の状況



3) 予測内容

① 予測項目

予測項目は、工事車両の走行に伴う人と自然との触れ合いの活動の場のアクセスルートへの影響の程度とした。

② 予測方法

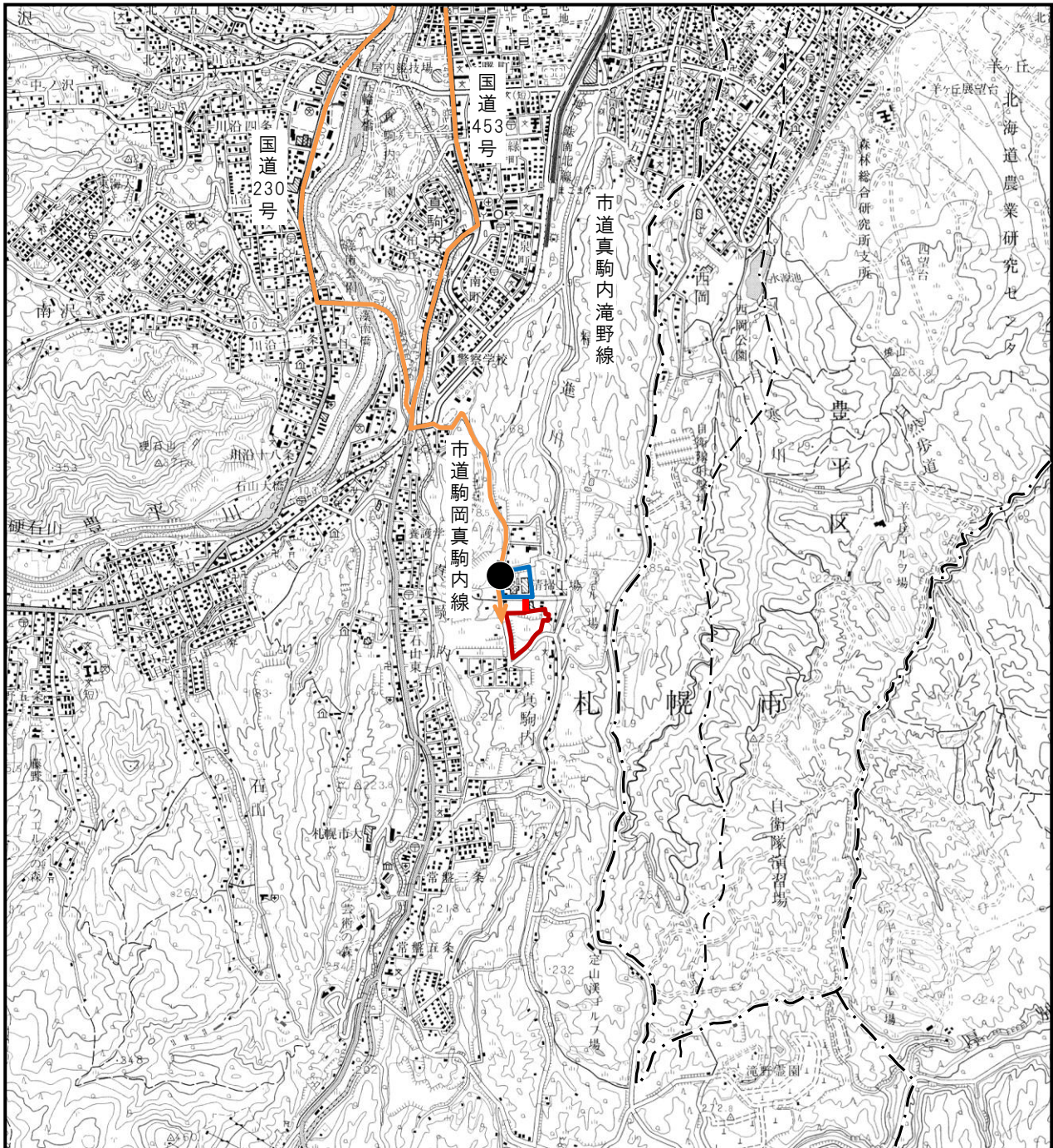
工事計画に基づく工事車両の走行ルート、走行台数と現地調査結果に基づく歩行者及び自転車の交通の状況、交通安全施設の設置状況を比較することで人と自然との触れ合いの活動の場のアクセスルートへの影響の程度を予測する方法とした。

③ 予測地点

予測地点は図7-3-2-4に示すとおり、工事車両の主要走行ルートとなる市道駒岡真駒内線の沿道とした。

④ 予測時期

予測時期は、工事関連車両の運行による影響が大きくなる時期として、造成工事において残土を搬出する時期及び土木・建築工事においてコンクリート打設がピークになる時期に設定した。







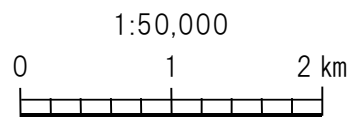
凡 例	
	現駒岡清掃工場
	事業実施区域
	工事関連車両の主要走行ルート
	予測地点

図7-3-2-4
 工事関連車両の予測地点

注：この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(石山)を拡大して使用したものである



⑤ 予測条件

ア. 工事関連車両交通量

敷地造成工事時及び土木・建築工事時における工事関連車両の台数を表7-3-2-10に示す。工事関連車両の台数が最も多くなる時期は、焼却施設のごみピットのコンクリート打設を行う時期であり、最大でコンクリートミキサー車(大型車)215台、その他車両(小型車)65台を計画している。また、工事関連車両(通勤車両を除く)の通行時間帯は7～17時を予定している。

表7-3-2-10 工事関連車両の台数

単位：台/日

予測時期	大型車	小型車	合計
敷地造成工事(残土搬出)	66 (132)	20 (40)	86 (172)
土木・建築工事 (コンクリート打設)	215 (430)	65 (130)	280 (560)

注：()内は往復を考慮した台数である。

イ. 現況交通量

工事期間中における交通量は、現況交通量に工事関連車両の台数を加算することにより設定した。現況交通量は表7-3-2-11に示すとおり、現地調査実施時の交通量を用いた。

表7-3-2-11 現況交通量(平日：市道駒岡真駒内線)

単位：台/12時間(7～19時)

調査時期	大型車 (台)	小型車 (台)	自動車 類合計 (台)	大型車 混入率 (%)	二輪車 (台)	歩行者 (人)	自転車 (台)
秋季	445	1,105	1,550	28.7	0	31	0
冬季	1,178	968	2,146	54.9	0	27	0
春季	253	1,115	1,368	18.5	13	34	15
夏季	805	1,227	2,032	39.6	4	27	9

4) 予測結果

将来交通量の予測結果を表7-3-2-12に示す。

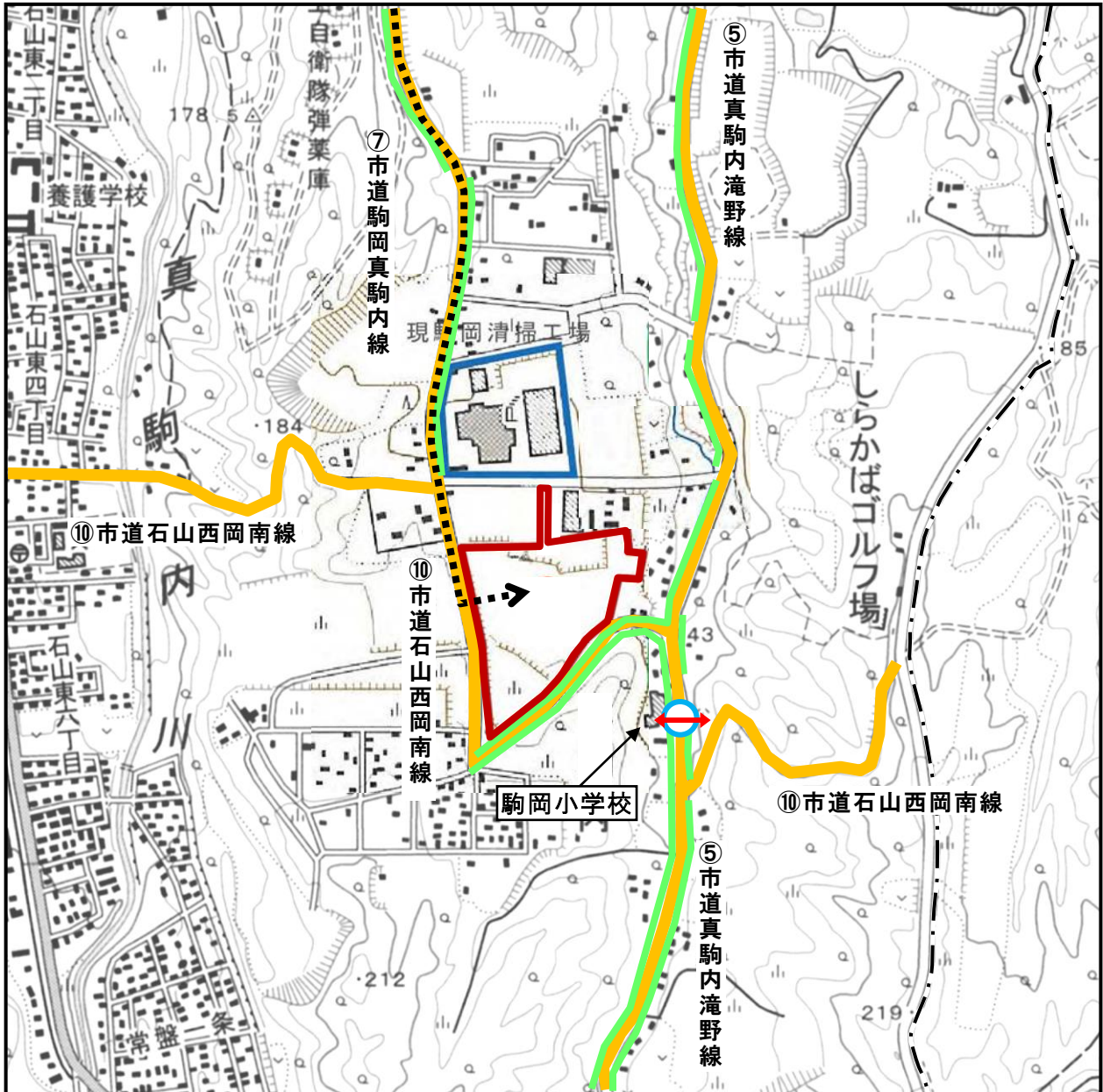
自動車類交通量の増加率は、126%から141%と予測されるが、工事関連車両の走行ルート沿道には人と自然との触れ合いの活動の場は立地していないため、アクセスへの影響はないと予測される。

工事関連車両の走行ルートと交通安全施設の状況は図7-3-2-5に示すとおりであり、事業実施区域の西側道路には歩道がなく、現駒岡清掃工場の北側には歩道があるが連続していないため、道路を横断する必要がある。この区間は、30人前後の歩行者(主に散歩等)が通行しているため、交通安全対策が必要となる。

表7-3-2-12 将来交通量(平日：市道駒岡真駒内線)

単位：台/12時間(7～19時)

調査時期	調査日	大型車 (台)	小型車 (台)	自動車 類合計 (台)	大型車 混入率 (%)	二輪車 (台)	歩行者 (人)	自転車 (台)
秋季	現況	445	1,105	1,550	28.7	0	31	0
	将来	875	1,235	2,110	41.5	0	31	0
	増加率	197%	112%	136%	12.8	-	-	-
冬季	現況	1,178	968	2,146	54.9	0	27	0
	将来	1,608	1,098	2,706	59.4	0	27	0
	増加率	137%	113%	126%	4.5	-	-	-
春季	現況	253	1,115	1,368	18.5	13	34	15
	将来	683	1,245	1,928	35.4	13	34	15
	増加率	270%	112%	141%	16.9	-	-	-
夏季	現況	805	1,227	2,032	39.6	4	27	9
	将来	1,235	1,357	2,592	47.6	4	27	9
	増加率	153%	111%	128%	8.0	-	-	-










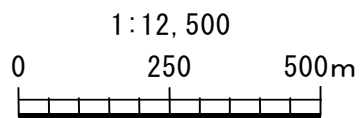
凡 例	
	現 駒 岡 清 掃 工 場
	事 業 実 施 区 域
	調 査 対 象 道 路
	信 号 機
	横 断 歩 道
	歩 道
	工 事 関 連 車 両 の 走 行 ル ー ト

図7-3-2-5
 工事関連車両の走行ルートと交通安全施設の状況



5) 環境保全のための措置

人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないと予測されることから、環境保全のための措置は講じないものとする。

交通安全については、歩行者等の安全を確保するため、以下の措置を講じる計画である。

- ・事業実施区域の出入口には交通誘導員を配置し、歩行者や一般車両の安全を確保する。
- ・場内に車両待機場所を確保し、事業実施区域周辺の道路上で待機車両を発生させない。
- ・過積載を防止し、制限速度の遵守を徹底する。

6) 評価

① 環境影響の回避、低減に係る評価

人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないと予測されることから、影響は回避されているものと評価する。

交通安全については、交通誘導員の配置や制限速度の遵守等の環境保全措置を実施することから、実行可能な範囲内で影響を低減できるものと評価する。

(2) 地形改変後の土地及び工作物の存在(土地又は工作物の存在及び供用)

1) 調査内容

① 調査項目

調査項目は、表7-3-2-13に示すとおりとした。

表7-3-2-13 地形改変後の土地及び工作物の存在に係る調査項目

調査内容	調査項目
人と自然との触れ合いの活動の場の状況	人と自然との触れ合いの活動の場の利用の状況及び利用環境の状況

② 調査期間

調査期間は、表7-3-2-14に示すとおりとした。

表7-3-2-14 地形改変後の土地及び工作物の存在に係る調査期間

調査内容	調査項目	調査期間
人と自然との触れ合いの活動の場の状況	人と自然との触れ合いの活動の場の利用の状況及び利用環境の状況	①川沿公園(中景域) 秋季平日：平成28年10月28日(金)7時～19時 秋季休日：平成28年10月30日(日)7時～19時 冬季平日：平成29年1月17日(火)7時～19時 冬季休日：平成29年1月29日(日)7時～19時 春季平日：平成29年5月17日(水)7時～19時 春季休日：平成29年5月21日(日)7時～19時 夏季平日：平成29年8月3日(木)7時～19時 夏季休日：平成29年8月6日(日)7時～19時 ②藻岩山展望台(遠景域) 過去5年分の利用者数

③ 調査方法

調査方法は、表7-3-2-15に示すとおりとした。

表7-3-2-15 地形改変後の土地及び工作物の存在に係る調査方法

調査内容	調査項目	調査方法
人と自然との触れ合いの活動の場の状況	人と自然との触れ合いの活動の場の利用の状況及び利用環境の状況	①川沿公園(中景域) 現地踏査(目視確認)により確認・記録する方法 ②藻岩山展望台(遠景域) 既存資料の収集整理及び関係機関へのヒアリングにより確認する方法

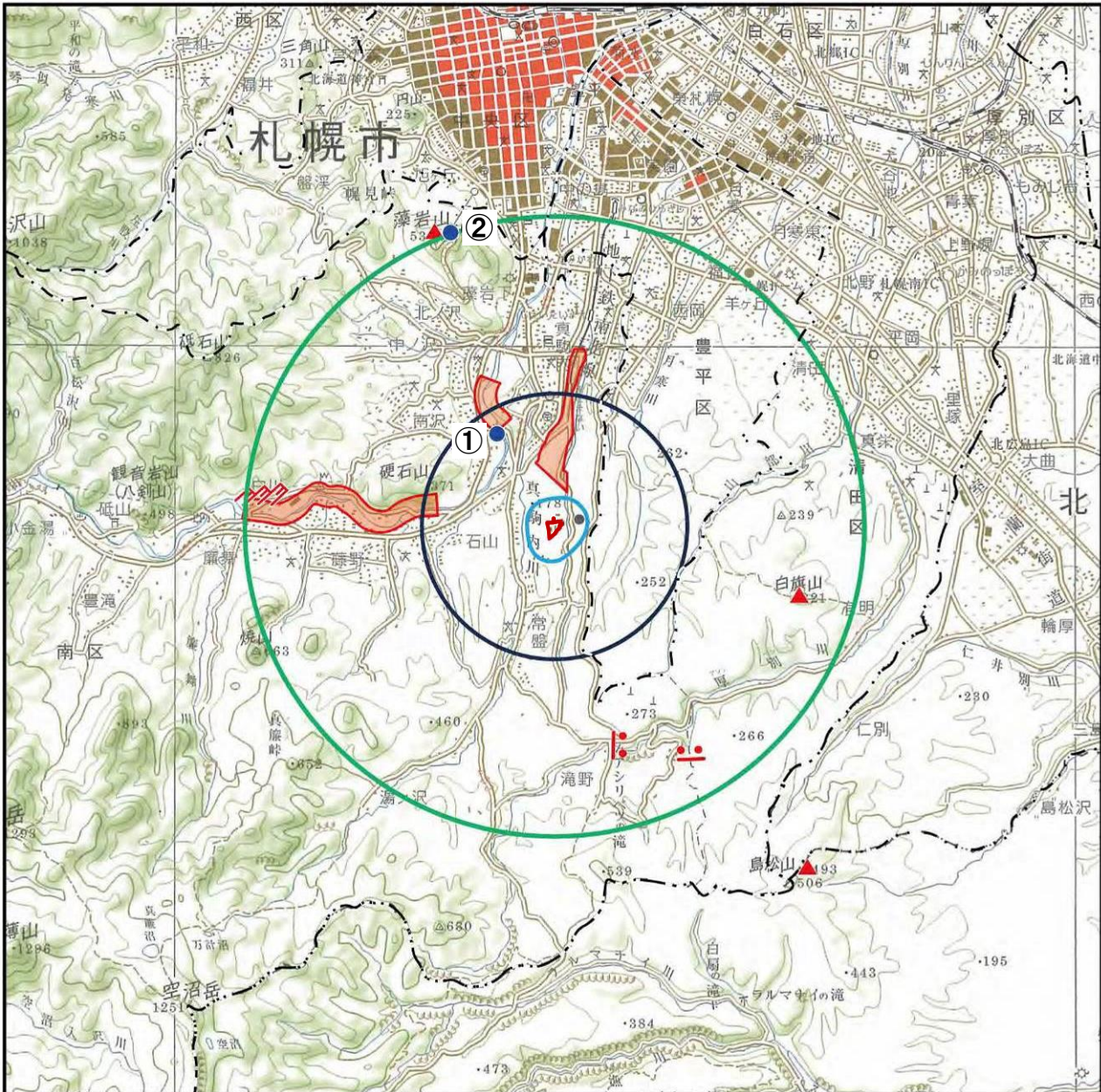
④ 調査地点

調査地点は、表7-3-2-16及び図7-3-2-6に示すとおりとした。

表7-3-2-16 地形改変後の土地及び工作物の存在に係る調査地点

調査内容	調査項目	調査地点
人と自然との触れ合いの活動の場の状況	人と自然との触れ合いの活動の場の利用の状況及び利用環境の状況	①川沿公園(中景域) ②藻岩山展望台(遠景域)

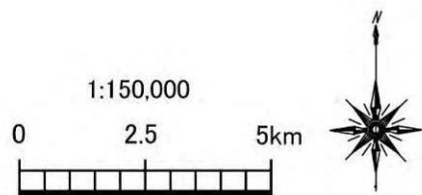
注:方法書において調査対象とした「札幌ガーデンヒルズしらかばゴルフ場(近景域)」への影響要因は、景観であることから、「7-3-1 景観」の項で調査、予測、評価を行った。



凡 例	
	事業実施区域
	区 界
	市 町 村 界
	人と自然との触れ合いの活動の場 調査地域 (7km)
	近 景 域 (500m 以 内)
	中 景 域 (3km 以 内)
	自 然 景 観 資 源
	人と自然との触れ合いの活動の場 調査地点 (中景域・遠景域)
	人と自然との触れ合いの活動の場 調査地点 (近景域)
①	川 沿 公 園
②	藻 岩 山 展 望 台

図7-3-2-6 人と自然との触れ合い活動の場の調査地点(地形改変後の土地及び工作物の存在)

注：この地図は、国土地理院発行の20万分の1地形図(札幌)を縮小して使用したものである。



2) 調査結果

① 川沿公園

川沿公園における利用者数の調査結果を表7-3-2-17～表7-3-2-20に示す。

秋季の主な活動内容は、散歩、遊具利用、スポーツ、体操等であった。

冬季の主な活動内容は、散歩、スキー、そり遊び等であった。

春季の主な活動内容は、散歩、バスケットボール、テニス等であった。

夏季の主な活動内容は、散歩、バスケットボール、遊具利用等であった。

表7-3-2-17 川沿公園の調査結果(秋季)

調査地点：川沿公園

時間帯	平日 平成28年10月28日(金)		休日 平成28年10月30日(日)	
	利用者数	主な活動内容	利用者数	主な活動内容
7	3	散歩、体操	7	散歩、体操
9	3	散歩	19	散歩、遊具利用、スポーツ
11	41	散歩、幼稚園児遊具	6	散歩、運動
13	7	散歩、昼寝、スポーツ	6	散歩
15	6	散歩	11	散歩、遊具利用、スポーツ
17	15	散歩、スポーツ	7	散歩、スポーツ
19	2	スポーツ	0	-
合計	77	-	56	-

注)利用者数は2時間おきに公園内を巡回、記録した人数であり、延べ人数ではない。

表7-3-2-18 川沿公園の調査結果(冬季)

調査地点：川沿公園

時間帯	平日 平成29年1月17日(火)		休日 平成29年1月29日(日)	
	利用者数	主な活動内容	利用者数	主な活動内容
7	0	-	4	散歩、スキー
9	3	散歩	2	散歩、スキー
11	5	散歩、スキー	6	散歩、スキー、そり遊び
13	7	散歩、そり遊び	3	散歩、そり遊び
15	0	-	12	散歩、そり遊び
17	1	散歩	13	散歩、そり遊び
19	0	-	0	-
合計	16	-	40	-

注)利用者数は2時間おきに公園内を巡回、記録した人数であり、延べ人数ではない。

表7-3-2-19 川沿公園の調査結果(春季)

調査地点：川沿公園

時間帯	平日 平成29年5月17日(水)		休日 平成29年5月21日(日)	
	利用者数	主な活動内容	利用者数	主な活動内容
7	5	散歩	3	散歩
9	8	散歩、テニス	10	散歩、バスケットボール
11	20	散歩、テニス	26	散歩、バスケットボール、ランニング
13	10	散歩、休憩、食事	30	散歩、バスケットボール、そり遊び
15	15	散歩、休憩、バスケットボール	25	バスケットボール
17	8	散歩、バスケットボール	31	散歩、バスケットボール
19	6	散歩、バスケットボール	20	散歩、バスケットボール
合計	72	-	145	-

注)利用者数は2時間おきに公園内を巡回、記録した人数であり、延べ人数ではない。

表7-3-2-20 川沿公園の調査結果(夏季)

調査地点：川沿公園

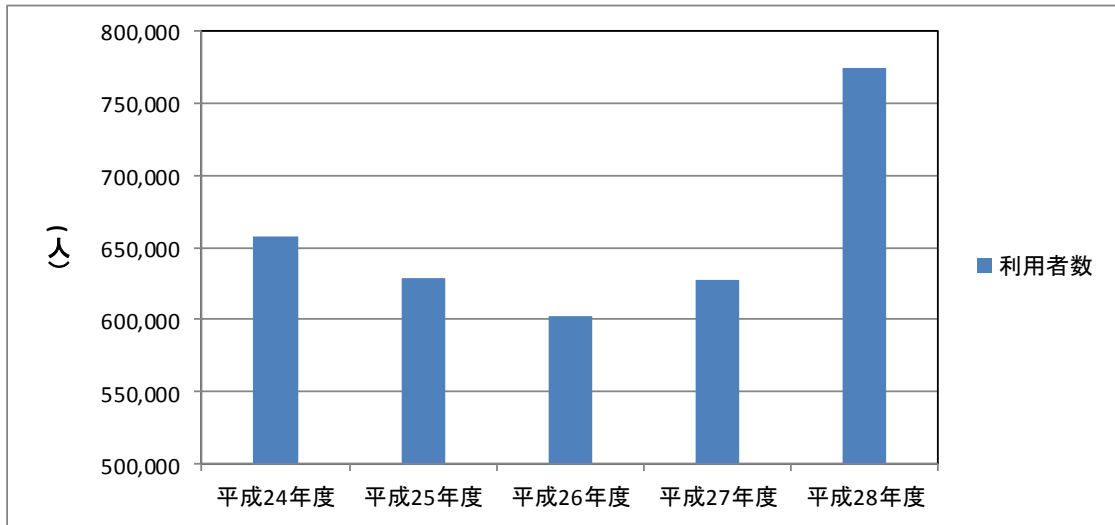
時間帯	平日 平成29年8月3日(木)		休日 平成29年8月6日(日)	
	利用者数	主な活動内容	利用者数	主な活動内容
7	10	散歩、遊具	6	散歩、ジョギング、体操
9	6	散歩、バスケットボール、ダンス練習	4	散歩
11	16	散歩、バスケットボール、遊具、休憩	9	散歩、水遊び、遊具
13	20	散歩、バスケットボール、休憩、食事、ジョギング	23	散歩、バスケットボール、食事、キャッチボール、休憩
15	32	散歩、バスケットボール、休憩、昆虫採集、遊具	21	散歩、バスケットボール、休憩、遊具
17	5	散歩、バスケットボール	15	散歩、バスケットボール、ジョギング、休憩
19	4	散歩、バスケットボール、休憩	6	散歩、バスケットボール、休憩
合計	93	-	84	-

注)利用者数は2時間おきに公園内を巡回、記録した人数であり、延べ人数ではない。

② 藻岩山展望台

各年度における藻岩山の利用者数を図7-3-2-7に示す。

平成23年度のリニューアル後の年間利用者数は約60万人～77万人となっている。



出典)札幌市経済観光局「平成29年度版 札幌の観光」(平成29年9月)

図7-3-2-7 藻岩山の利用者数

3) 予測内容

① 予測項目

予測項目は、供用時の施設の存在に伴う人と自然との触れ合いの活動の場の利用環境への影響の程度とした。

② 予測方法

施設の供用時における景観の予測評価結果から人と自然との触れ合いの活動の場の利用環境の変化の程度について予測する方法とした。

③ 予測地域・地点

予測地域は、調査地域と同じ地域(事業実施区域から7km)とした。予測地点は川沿公園(中景域)、藻岩山展望台(遠景域)とした。

④ 予測時期

予測時期は、施設が完成した時期とした。

4) 予測結果

人と自然との触れ合いの活動の場の利用環境の変化の予測結果を表7-3-2-21及び写真7-3-2-1～写真7-3-2-2に示す。

表7-3-2-21 人と自然との触れ合いの活動の場の利用環境の変化

予測地点	予測結果
川沿公園	<p>【景観の変化】 川沿公園内の開けた場所から事業実施区域方向を眺望することができる。新焼却施設の煙突と建屋の大部分は住宅と樹林地に遮られており、煙突先端のごく一部を視認することができる。新焼却施設、既存焼却施設ともに煙突先端の一部が視認されるだけであり、景観の変化はほとんどないと予測される。</p> <p>【利用環境の変化】 本公園における主な活動は、スポーツや散歩である。景観の変化がほとんどなく、事業実施区域からの距離も約 2km 離れていることから、人と自然との触れ合いの活動の場としての利用環境の変化はないと予測される。</p>
藻岩山展望台	<p>【景観の変化】 藻岩山展望台から事業実施区域方向を眺望することができる。既存焼却施設、新焼却施設ともに、煙突と建屋の大部分を視認することができるが、約 7km 離れており、細部を識別することは難しく、景観の変化はほとんどないと予測される。</p> <p>【利用環境の変化】 本展望台における主な活動は、景観を楽しむことである。事業実施区域からの距離は約 7km 離れており、景観の変化がほとんどないことから、人と自然との触れ合いの活動の場としての利用環境の変化はないと予測される。</p>

<p>現 況</p>	 <p>既存焼却施設</p>
<p>将 来</p>	 <p>既存焼却施設 新焼却施設</p>
<p>将 来 (既存施設撤去後)</p>	 <p>新焼却施設</p>

写真7-3-2-1 川沿公園からの眺望の変化

<p>現 況</p>	 <p>既存焼却施設</p>
<p>将 来</p>	 <p>既存焼却施設 新焼却施設</p>
<p>将 来 (既存施設撤去後)</p>	 <p>新焼却施設</p>

写真7-3-2-2 藻岩山からの眺望の変化

5) 環境保全のための措置

施設の存在による人と自然との触れ合いの活動の場への影響については、煙突が視認されることによる影響を低減するため、以下の環境保全のための措置を講じる計画である。

- ・煙突は中光度白色航空障害灯を設けることで昼間障害標識(赤白塗装)を設けない。

6) 評価

① 環境影響の回避、低減に係る評価

事業実施区域周辺の人と自然との触れ合いの活動の場から、煙突先端の一部が視認されるが、煙突は昼間障害標識(赤白塗装)を設けないこととする。このため、施設の存在による人と自然との触れ合いの活動の場への影響は実行可能な範囲内で低減されているものと評価する。